

遺品整理 チェックリスト

記入例

作業前の打ち合わせと、作業の当日に確かめること

ご依頼者	〇〇〇〇様（ご家族）	作業日	2026年7月10日
物件の所在地	〇〇県〇〇市〇〇町1-2-3	物件の種類	戸建（持ち家）
部屋の数	1部屋（居間・和室）	立会者	〇〇〇〇様（ご家族）
作業会社	〇〇遺品整理サービス	作業責任者	〇〇〇〇

作業の前（見積もりと打ち合わせ） 済んだら✓・当てはまらなければ―

印	確かめること	確認した日	メモ
✓	ご依頼者が相続人か、ほかの相続人も整理に同意しているかを確かめた	6/26	ご長男が窓口。ご兄弟の同意は確認済み
✓	探してほしい物（遺言書・通帳・印鑑・権利書・保険証券・年金の書類・写真）を聞き取った	6/26	通帳2冊・実印・保険証券を探す
✓	残す物・形見分けする物を決めてもらい、付箋や紙で印を付けた	6/26	黄色の付箋＝残す物
✓	作業の範囲と、追加の費用がかかる場合を書いた見積書を渡した	6/28	追加は事前に相談のうえ
✓	作業日・立会いの有無・鍵の受け渡しの方法を決めた	6/28	当日はご長男が立会い・鍵は当日お預かり
―	賃貸なら、退去の日と管理会社・大家さんへの連絡を確かめた		持ち家のため対象外
✓	電気・ガス・水道・電話を止める日を確かめた	7/3	電話は7/31で解約
✓	近所へのあいさつ、車を止める場所、共用部の養生を決めた	7/8	向かい2軒にあいさつ・車は敷地内に1台
済み（✓）／確かめる項目（―を除く）			7／7

作業の当日（仕分けと搬出） 済んだら✓・当てはまらなければ―

印	確かめること	確認した日	メモ
✓	作業前の写真を部屋ごとに撮った	7/10	写真8枚
✓	貴重品（現金・通帳・印鑑・権利書・有価証券・貴金属）を探し、見つけた場所と一緒に記録した	7/10	たんす上段で現金・通帳・印鑑
✓	遺言書・契約書など大事な書類は、封を開けずにご依頼者へ渡した	7/10	保険証券の封筒をそのままお渡し
✓	形見・思い出の品（写真・手紙・アルバム）を分けて残した	7/10	アルバム・手紙を分けた
✓	買い取る物・リサイクルする物・捨てる物・危ない物（スプレー缶・電池・灯油）に分けた	7/10	スプレー缶は中身を出さずに分けた
―	エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機は家電リサイクルに出した		家電リサイクルの4品目なし
✓	仏壇・神棚・人形など、供養してほしい物を確かめた	7/10	仏具一式＝合同供養
✓	捨てる物は、許可のある業者か市町村の収集に出した	7/10	家具・生活用品は許可業者へ
✓	搬出のあと、清掃して作業後の写真を部屋ごとに撮った	7/10	簡易清掃まで
済み（✓）／確かめる項目（―を除く）			8／8

印は、済んだら✓、当てはまらない項目は―（メモに理由）。大事な書類は中を見ずに封のままご依頼者へ渡し、ご依頼者のほかに相続人がいるときは、整理を始める前に皆さんの同意をご依頼者から確かめておく、あとの行き違いを防げる。

遺品整理 引渡しと完了の確認

記入例

貴重品・形見と処分の行き先の記録・作業完了の確認

ご依頼者	〇〇〇〇様（ご家族）	作業日	2026年7月10日
------	------------	-----	------------

貴重品・形見と、買取・処分・供養の行き先 分類＝貴重品／形見・遺品／買取・リサイクル／廃棄・一般／廃棄・産業廃棄物／供養品／その他

No.	分類	品名	数量	見つけた場所	引渡し先・処分先
1	貴重品	現金・預金通帳・印鑑	一式	居間のたんす上段	ご家族へその場で返却
2	形見・遺品	アルバム・手紙	一式	居間の書棚	ご家族へお渡し
3	買取・リサイクル	食器・調理器具	一式	居間の食器棚	〇〇リユース（買取）
4	供養品	仏具一式	1式	居間	〇〇（合同供養）
5	廃棄・一般	家具・生活用品	一式	居間	〇〇市の許可業者へ
6	廃棄・産業廃棄物	塗料・スプレー缶	一式	居間の押入れ	〇〇（許可業者へ搬入）
7					
8					
9					
貴重品・形見の件数（ご依頼者へ渡すもの）					2件

作業完了の確認 ご依頼者が確かめた項目にチェックしてサイン

✓	貴重品・形見を、上の一覧と照らして受け取った
✓	作業後の部屋を見て、残す物が残っていることを確かめた
✓	買取・処分・供養の行き先の説明を受けた
✓	作業前後の写真を見せてもらった
✓	預けていた鍵を受け取った

ご依頼者のサイン	〇〇〇〇
確認した日	2026年7月10日
作業責任者	〇〇〇〇

法令で決まった様式はない。捨てる物は、一般廃棄物の収集運搬の許可のある業者が市町村の収集に、買い取る物は古物商の許可で扱う。引渡しの一覧は、ご依頼者と一緒に品と数を照らしてからサインをもらう。 記入例の日付・名前・品は書き方を示すための仮のものです。